

no.21

CLC からしだね書店 便り



9

2022
September

CLC からしだね書店では…

- 1 キリスト教書が中心ですが、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- 2 お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
- 3 ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- 4 コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- 5 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- 6 古書のコーナーもあります。ほりだしものもあります。
- 7 読書会や著者を招いての講演会など、人と人との出会い、つながる「対話」の場を提供します。

読書感想本

「キリスト教信仰の「本質」が分かる本。そう言い切っている」と思っています。

『気合の入ったキリスト教入門 三部作』

I 根本問題をつかめ！ II イエス登場！ III イエスと歩め！』

ドン・ボスコ新書 来住英俊 著 各770円（税込）

「宗教を信じる」ということについて、みなさんはどんなイメージをお持ちだろうか。自分の意志や主体性を捨て去って、ひたすら「正しい教え」に盲従しなければならない。偉い先生や教祖様、神様の言う通りにしなければならない。そんなイメージがないだろうか。

しかし、カトリック司祭である著者は言う。

「キリスト教信仰を生きたとは、正しい教えに従い、立派な人物の模範に倣うことではない。キリスト教信仰を生きたとは、人となった神、イエス・キリストと、人生の悩み・喜び・疑問を語り合いながら、ともに旅路を歩むことである。」(Ⅲ巻、35頁)

クリスチャン友達と話していると、しばしば「神様の御心がわからない」という悩みを耳にする。「今自分がやっている仕事が神様の御心なのかどうかわからない」。「この人と結婚していいかどうか、御心がわからない」……。

そんな話を延々聞いていると、「あなたの意志はどこにあるの?」と言いたくなる。「要するに、今の人生が面白くない。楽しくないってことじゃないの?」「あなたは何をしている時間が楽しいの? 生き生きするの?」「自分の感じていることを素直に感じる感性が麻痺してきているんじゃないの?」「こんなお節介な心配が頭をもたげてきてしまう。



しかし、もし神が本当に「愛」のある「天の父」だと言っているのなら、どうなのか。愛のある親は、子の想いや実感を尊重し、子の幸せを第一に考えるのではないだろうか。

「私が決めたこの人と結婚しなさい。異論は認めない。お前の意志などどうでもいい。お前が幸せを感じるかどうかなど関係ない。すべて私の決定に従うこと。それがお前のためになるのだ。いいか。これはお前のために言っているんだ!」こんな

いやいや、そうは言っても「兄弟を七の七十倍まで許せ」というような無茶な(一)命令が、聖書には書いてあるではないか。そう思ってもいい。しかし、著者はこう言う。

「福音書を読んで、イエスを身近に感じることはありません。『中略』人をゆるすことは大事ですよという、昔の人が言った教えが書き留められていて、それを生活の指針とするのではない。聖書を開いたときに、イエスが『どうか、来住くん』とかいうふう(笑)語りかけているような気がする。『もう一度ゆるしてみないかね』と言っているようである。『そうでしょうかねえ、ちょっと考えてみます』とそのような対話が成り立つときがある。」(3巻・109・110頁)

ことを言う「親」がいたとしたら、これは今風に言えば「毒親」になるのではないか?

もし、神が人間を「ペット」でも「人形」でもなく、「神の似姿」として、対話できるパートナーとしてお創りになったのなら、こんな風に問いかけてくれるはずではないだろうか?

「うむ……私はこうした方がいいと思う。でもお前は思うう? お前は本当はどうしたいのだ?」

著者の伝える「神」のイメージは、暴君でも毒親でもない。本当に身近な、懐が深く、愛のある親。絶妙の距離感で関わってくれる先生。あるいは親友。あるいは凄腕のカウンセラーのようだ。

「私たちはイエスに問いかけますし、問いかけて耳を澄ますと、イエスから何かが告げられるとかすかに感じることもあるけれども、『こつしなさい』と明確な答えが返ってくるわけ



はない。やっぱり私たちはイエスに問いかけつつも、やはり自分で識別して、自分で決断して、自分で責任を負っていくのです。「中略」イエスは信じる者の傍に確かに共にいる。しかし同時に不在でもある。」(Ⅲ巻・114-115頁)

聖書によれば、イエスは十字架にかかった後、三日目に復活し、天に昇ったとされる。この「キリストの昇天」のエピソードを、著者は「イエスは愛をもって人々から距離を取られたのだ」と解釈する。

もし、イエスが今も生きていて、私たちのそばに物理的にいたとしたら、私たちはそのカリスマ性に圧倒されてしまうだろう。そして、自分で考えることをしなくなり、「どうしたらいいですか?」「助けてくださいー」と、いちいちなんでも裁可を仰ぐだろう。そして、イエスも優しいから、つついっ助けてしまおうだろう。

でも、神はあえてそうしなかった。イエスを「昇天」させ、人間と距離を取る道を選んだ。イエスは不在である。しかし、



京都のかたすみから見えた風景(6) バラ園にて

〇〇〇からしだわ書店 店長 坂岡 恵

5月のある日曜日の午後のこと。

近所のバラ園のバラがもうそろそろおしまいだと聞いて、娘を誘って出かけた。

「バラ園に来ているというだけで、そこはかたなくみやびな気分になるね」と娘が言った。どつやら娘は、心から優雅な気分にはたっているらしい。

それに対して私は、バラと聞くとすぐに、子どものころ友達から借りて読んだ「ベルサイユのばば」を思い出して、オスカルやアンドレやマリー・アントワネットの、悲しくも美しい、そして激しいフランス革命の物語に思いをはせてしまつたのだ。

「お父さん、ほら、こっちこっち」

と呼ぶ声が、少し離れた噴水のあたりから響いて、思わずそちらの方に目をやると、そこには一組の親子がいた。

同時に確かに傍にいます。そのような絶妙な距離感があるからこそ、本当に深い、「神と共にある」ということの真実がわかるのである。

神が予め用意している「正解」を言い当てるのが信仰なのではない。神と対話しながら、神と一緒に人生を冒険し、未来を創造して生きる。それがキリスト教信仰なのである。福音の要を思い出させてくれる良書として、信徒にも無信徒にもぜひ推薦したい。

(書店だより編集協力者 O・S氏)



空色のひらひらしたワンピースを上品に着こなし、さらさらのロングヘアをなびかせて、メイクもばっちりの40歳

くらいの娘さんと、小柄でちよつと頭のうすいお父さん。

娘さんはずもと背が高い上にハイヒールを履いているので、それだけで頭ひとつ目立っているのだが、一緒にいるお父さんは、ショルダーバッグをはずすにかけた地味ないでたち。そのでこぼこの取り合わせがまた、ひときわ目立っていた。モデル並みにすらつとしたスタイルの娘さんの低い声の調子から、彼女はトランスジェンダーなのかなという気がした。

二人はそれぞれが自撮り棒を持っていて、娘さんの華やかな服装からも、今日はおきの写真を撮りに来たんだぞ、という気合のよつなまのを感じている。

ジーンズやTシャツやスニーカーなんかをラフに身につけた他のお客さんたちの中で、ちよつと違つ色を放ちな

9月限定メニュー
メニュー紹介 ONLY、初の1ページ!!(へっ!!)

cafe
triangl

おかわりやのキャロポテサンド
野菜たっぷりスープ付き ¥650-



からしだねオリジナル
本革聖書カバー
2022版

共同訳・新改訳聖書、
旧約・新約聖書のB6
版が入るサイズです。

近日発売

6個限定 **8,000**円(税込)

超特価です

タンニンなめしの革にオイルを入れ、
再度タンニンでなめした
オイルプルアップヌメ革を使用。

使い込むごとに革がなじみ、
色も変化していきます。

裁断からステッチまですべて
手作業で仕上げたこだわりのカバーです。

クリスマスプレゼント
にいかがでしょうか?

がらも、でこぼこコンビの親子連れは、写真映える噴水の横で静かに撮影の順番を待っていた。順番がまわって来ると、娘さんは思いっきりはじけた笑顔でポーズをとり、お父さんはその姿をきこちない手つきでカメラにおさめている。

突然、娘さんの左手がお父さんの小さな体をぎゅっと自分の方に引き寄せた。

「ほら、笑って、お父さんー」

急な展開に「瞬とまどろつような表情を見せたお父さんは、娘さんの優しい腕のなかにちんまりおさまって、その思いに応えようと、一生懸命に笑顔を作っているように見えた。

園内はそこそこの賑わいで、お客さんたちは最後の力を振り絞るように咲き誇るバラの花を、思い思いに愛でながら、楽しそうに会話をしたり、写真を撮ったり、花に顔を寄せて香りを楽しんだりしている。目立つはずの親子のこのとき、風景のひとコマにそっと置いて、それぞれがそれぞれの幸せな時間を、色とりどりの思い出にかえていく。

ああ、いいなあ、と私は思った。

「このバラ園に来た人たちがみんな、これからますます、幸せであり続けますように」



と、心のなかで祈ったら、私のすぐそばで、イエスをまが「すてきな祈りをしてくれて、ありがとう」

と、嬉しそうにおっしゃるのが聞こえた気がした。

それからイエスさまは、あの親子のところに行つて、「ここに笑いながら一緒に写真におさまっておられるのが見えた気がした。」

オスカルもアンドレもマリー・アントワネットも、バラ園にいる私たちも、みんなそれぞれ、悲しくも美しい、そして激しい人生を生きている。様々な色のバラの花は、そんな私たちの今このひとときを、華麗に彩ってくれている。

「お母さん、写真撮ったげよっか」と娘が言った。

私も娘を引き寄せて、ささやかな二人の時間をそっとマホにおさめた。





耐えがたい現実を、お酒の力で生き延びるしかないようなサブバルドリンカーのB子さん。彼女に一体何が起ったのでしょうか。8月号からの続きです。

〇〇警察署です。

「〇〇警察署です。Bさんが自宅で暴れ、娘さんともみ合いになりました。その際、ベランダに面した窓ガラスが破れ、近隣から警察へ通報が入りました。Bさんにはとりあえず警察で事情を聞きましたが、一人で帰ってもううのも心配なので、迎えにきてください」とのこと。

警察署でBさんに何が起ったのかを聞きました。このころ、まともな次女と話ができず、イライラを募らせていたB子さん。お酒の量もコントロールできなくなり、次女の前でも感情を爆発させたり、執拗にからむようになりました。昨晩はスマホで彼氏と話をしている次女に対し、大声で罵りながらスマホを取り上げ、窓から投げ投げようとした。それを阻止しようとする次女ともみ合いになり、とうとう窓ガラスが破れてしまいました。大声や窓ガラスの割れた音に驚いた近隣からの通報で警察が来た時は、次女は自宅を飛び出し不在。B子

しかし…、

前回の警察沙汰から、2か月も立たないうちに、今度は△△病院から連絡が入りました。B子さんが顔を切って、救急で処置をしました。額を数針縫うケガをしましたが大事には至りませんでした」とのこと。お酒で酩酊状態の時にB子さんが次女にからみ、たまりかねた次女が家を出ようとしたそうです。B子さんは、荷物をまとめた次女にしがみつき、大声を出しながら「出て行かん」としてと抵抗しました。もみ合いになり、次女がB子さんを振り払った時に下駄箱に顔をぶつけていました。次女は振り返らずにそのまま飛び出していったので、B子さんがケガをしたことも知りません。

警察から戻った彼女を訪問看護師と一緒に訪問しました。次女はしばらくB子さんの両親宅で過ごすことになったそうです。B子さんは落ち着きを取り戻してはいましたが、声のかけようのないほど、憔悴し、自暴自棄になっていました。高齢の両親に迷惑をかけている自分、子どもたちと暮らせないようなふがない自分、医療や福祉の支援を受けても変わるることのできない弱い自分に絶望していました。



さん一人が自宅で泣いてたとのことでした。幸い、B子さんも次女もちょっとしたかすり傷で済んだようですが、B子さんは「今回で私は次女にも捨てられる」と肩を落としています。

次女の暮らし

次女は幼馴染の家に避難していました。翌日に戻ってきた次女は、何も言わずに母親との生活を再開しました。割れて抜けてしまった窓ガラスは、次女が一人で段ボールで応急処置をしました。スマホをめぐって取っ組みあいをしたことにも触れず、淡々と普段通りのやりとりをしながら、母親であるB子さんとの生活を続けました。母親との接触を最低限におさえながら、自分の生活を必死に守っているようにも見えました。

どんどん壊れていくB子さん

しばらくは、本人からも周囲からも何の連絡も入らない、静かな日々が続きました。B子さんは完全にお酒をやめることはできませんが、次女との生活を何とか継続できる範囲の酒量で何とかおさまっていました。このままずっと静かであるようにと願いながら、関係者が訪問をして見守りをしていました。

次女のいない一人きりの部屋で、食事もまともにとらず、お酒で意識を飛ばすだけの毎日が続きました。彼女からは「こんな人生、もう嫌や」「親にも子どもに捨てられたんや」との苦しい言葉しか出てきません。何かを変える力も尽き果て、一人で喪ったものの中に留まるしかできないようなB子さん。周囲のどんな言葉もむなしく届かない…、そんな状況が続きました。

喪失の中の小さな希望

B子さんには、地域での生活を支えるために複数の支援者がいます。役所・病院・訪問看護・ヘルパーさん・児童相談所(子どもの養育のため)・支援センターなどです。チームを作って、それぞれの専門性で役割分担をしながらB子さんや次女と関わっています。しかし、自分の人生をあきらめてしまっているように見えるB子さんには、医療や福祉でいったい何ができるのか…。支援者でさえも(口には出さなくても)焦りやあきらめが隠し切れなくなってきました。

それでも訪問を続けていた、そんなある日のことです。B子さんのマンションに到着すると、ドアのノック音がくまっています。人影が見えました。近づくと、訪問看護師さんがドアの郵便受けから、彼女に必死に呼びかけています。ドアは開けてくれないけれど、看護師の声かけに室内から応答しているようです。訪問看護師さんは無我夢中で郵便受け越しに彼女と話をしていて、

そばにいる私の気配をも全く気付かないほどでした。

翌日も訪問をしました。彼女のマンションに着くと、デジャブかと思うほど、昨日と同じ光景で誰かがドアの前にはいます。近づく、今度はヘルパーさんが、郵便受けから彼女の名前を呼んでいます。「B子さん B子さん こはん作りに来ましたよ」「B子さん お買い物行きますよ」「応答がなくても、あきらめずに声をかけ続けています。すると、ようやく扉が開き、ヘルパーさんが中に入っていました。後で様子を聞くと、おそうめんを作ったら、おいしそうに食べてくれたそうです。そして「今度はもっとおいしい冷麺を作りたいね」と次回の約束もしてきたとのことでした。

B子さんは、大きな喪失の中で、希望を見出すことができない毎日が続いています。しかし、毎日、毎日、郵便受けの向こうから呼びかける人がいる。私は、ここに希望の光を感じています。希望が見えなくなっている人の周りで、あきらめずにその人の名前を呼び続ける人がいる…。本人があきらめそうな時も、あきらめない誰かがいる…。

あきらめずに名前を呼ぶ一人になりたいと思います。

障書のこと、福祉のこと「こんなことを聞いてみたい」という人があれば、ぜひ、こちらからだね書店 (clc@karashidane.or.jp) までお知らせください。

なつしたね館へ、障書のあきらめずの希望を届ける。相談を受けたり、就労支援をしてほしいです。

皆さまからご寄贈いただいた古本・古書は、からしだねワークスで働く利用者や職員、ボランティアさんで、整理とクリーニング、値付け、登録などを分担して行っています。



まだ値段がついていない本もありますが、おおむね、文庫本は100円、他の本も100円～定価の7割程度でお買い上げいただいております。(中には2円50銭という定価の本もあつたりしますが、それはまた別話)

古書一覧リストページ
<https://karashidane.or.jp/project/job-assistance/clc-books/usedbook/usedbook-list>

中には、絶版になった貴重な本もあり、「あ、こんなところに、欲しかった本が…！」と、思わぬお宝を発見するお客様もおられます。

ご寄贈くださった方も、からしだねワークスで働く利用者さんたちの暮らしが支えられ、ふさわしい買い手のもとに本が届きますように、というお気持ちだと思いますので、他で高値がついている本も、定価以上の値はつけません。

◆HPの古書のコーナーをご利用ください
「古書一覧リストページから検索できます」
絶版の本もありません。おめあての本が見つからず、ぜひご来店ください(念のため売れてしまっていないか電話かメールでご確認いただけましたらと思います)

《お知らせ》

「となり人」を煮る会

様々な社会の破れて苦しんでいる人たちの「となり人となる」とは、どういったことでしょうか?

第1回 2022年 9月24日(土) 14~16時

第1回ゲスト 日本キリスト教海外伝道協力会 JOCS会長 畑野研太郎氏

《テーマ》 本当に生きるいのちを求めて

ハンセン病の方々と出会い、国内外を問わず関わってこられた弱さや痛みの中にある人たちのこと、死刑囚といのちのやりとりをされたお母さまのこと、などなど、畑野さんの人生のストーリーを語りださんにお話しいただきます。

場所 からしだね館 東所(10名まで)とオンライン
参加費 資料代実費
申込受付 9月18日まで
申込先 社会福祉法人ミッションからしだね館 武山
電話 075-574-2800
メール takeyama@karashidane.or.jp
申し込みの際は以下の項目についてお知らせください
・お名前・連絡先・参加方法(東所かオンライン)
・この会を知ったきっかけ、その他(遠慮事項など)

第1回	9月24日(土)	14~16時	ゲストによる話題提供
第2回	10月22日(土)	14~16時	ガイドブックを用いた学びと意見交換
第3回	11月26日(土)	14~16時	ガイドブックを用いた学びと意見交換
第4回	1月28日(土)	14~16時	ゲストによる話題提供
第5回	2月25日(土)	14~16時	ガイドブックを用いた学びと意見交換
第6回	3月25日(土)	14~16時	ガイドブックを用いた学びと意見交換

「からしだね館のひとこま担当 武山より」

来所とオンラインでの参加方法があります。参加費は資料代のみです。ぜひどうぞ!!

献本お知らせ

たいへん申し訳ございませんが、
送料をご負担いただけると
ありがたいです。
(受付できないものもありますので
事前にお知らせください)

百科事典・辞書・CD・
DVD・月刊誌・週刊誌等
は受け付けておりません

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本（多少、書き込み等があっても、大丈夫です）
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし（料理、健康、経済等）にかかわる本
- 5 小説（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）
- 6 漫画（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒にいただきたいもの】

以下の内容を記入したメモ

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。⑥献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思えます。お名前の掲載は困るという方は、お知らせください。

【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】

【献本感謝】

前田ケイ様、斉藤和子様、長谷川様、竿代ひろみ様（順不同）

8月の古書の収益は50,480円でした。収益はからしだねワークスの障がいを持つ利用者さんたちの工賃になります。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

◆9月になってもまだ、厳しい暑さが続いています。書店では、汗をかきつつ、クリスマスの準備に入ります。早くウクライナの戦争が終わり、平和なクリスマスを迎えられるようにと祈りながらの作業です。◆からしだねオリジナルの聖書カバー（革）の新作ができました。一針一針でいねいに作っています。サイズは、新改訳聖書、共同訳聖書、新共同訳聖書、中型（B6判）が入るように合わせています。お値段も抑えましたので、クリスマスプレゼントにいかがでしょうか。◆いつ終わるかわからない新型コロナですが、どうぞ皆様ご自愛ください。【店長】

CLCからしだね書店だよりの
バックナンバーはこちらから



編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス
からしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp